

ワークスタイル変革について

これから、「2012~2016年度 JAL グループ中期経営計画ローリングプラン 2015」の中でも重要な取り組み課題として挙げている、「ワークスタイル変革」を進めていきます。

経営破たんから今日まで、新生 JAL の翼を支えている皆さんが力を合わせて懸命な努力を継続してくださったことで、中期経営計画に掲げた経営目標の達成に向け、着実に歩みを進めてくることができました。ただし、これからも私たちが永続的に発展していくには、変化し多様化していくお客さまのニーズに的確に応え、より付加価値の高いサービスを創出し、お客さまに選ばれ続ける必要があります。

そのためには、全ての社員が総力をあげて活躍し続けられる環境を創り上げていかなければならないと考えています。

変革推進にあたり、私が考えるワークスタイル変革の目指すべき姿を皆さんにお伝えします。

- ・全社員が、生産性高く、やりがいをもって働き成長する。
- ・生み出された時間を社員一人ひとりが自身の時間の充実にあて、様々な経験を通じて成長する。
- ・これらの社員が生み出す、より付加価値の高い仕事の成果により会社も成長する。

これは「土俵の真ん中で相撲をとる」、「ものごとをシンプルにとらえる」、「能力は必ず進歩する」、「一人ひとりが JAL」など、多くの JAL フィロソフィの体現に他ならないと思っています。

皆さんには、業務時間内により高い成果をあげることに価値を置き、時間あたりの生産性というものを常に意識して仕事に取り組むこと、例えば日々の自分のスケジュール管理、業務の振り返りを通じた効率化や棚卸しなどについて、マネジメントはもちろん、皆さん一人ひとりが考え、実践することが必要です。

既にいくつかの組織でトライアルも含めて新しいワークスタイルに挑戦していただいていますので、各職場でも実践いただけるようなアイデアについて、皆さんにも積極的にお知らせしていきます。

これまでの働き方や仕組みを変えるのは簡単なことではありませんが、「昨日よりは今日、今日よりは明日」、私も先頭に立って皆さんと一緒に働き方を見直していきたいと思っています。変革へのベクトルを合わせ、皆でチャレンジしていきましょう。

日本航空 代表取締役社長

植木 義晴